

分科会の案内（1日目 16:00～18:00、2日目 9:00～10:45）



第1分科会 …まずは保育園、幼稚園、学校で会いましょう

就学相談やその手続きなどにおいて、共に学ぶための、行政を動かした先進的な取り組みや、実際に保育園や学校にお子さんを通わせている保護者の方からの話を伺います。みんなと一緒にわくわくして同じ社会の入り口でスタートするために。

埼玉の新座市や大阪の就学の取り組み、千葉からは保育制度を変えた取り組み、北海道からは特別支援学級から普通学級に転籍して学んでいる報告があります。



第2分科会 …みんなが居られる学校とは

共に学び遊んでいく中で、わかりあえない時や間違えたり失敗することがあっても、そして時には不登校になっても、大丈夫な学校にしようよ。不登校や特別支援学校で学んだ体験を交えて分離教育の問題を考え、地域の学校を変えるために知恵を出し合ひましょう。

不登校体験からの公教育に対する疑問、当事者の大学院生からは、高校からは特別支援学校へ行かされた体験からの分離教育の歪みについて聞きます。さらに、さまざまな子どもたちが互に気づき合うクラスづくりに取り組む実践報告があります。

第3分科会 …「合理的配慮」を問い直す

文科省が「支援」と言い換えている「合理的配慮」って何？要はどんな人も同じ社会で暮らそう、そのために必要なことは手助けし保障しましょうってこと？合理的配慮が必要ない世界になればいい？ エッ？ちょっと違うと思う？そんなことを掘り下げましょう！

34才の女子高生が通学することで学校や街が変わっていった報告や、「全身性介助人派遣事業」を利用した学校生活の報告、また、小学校教員（東京都）の立場から合理的配慮についてどう考えるかを聞きます。障害者権利条約における合理的配慮を再確認します。

第4分科会 …“共に学ぶ”と“共に働く”の間を考える

地域で共に学んだ延長で、地域で共に働くことはできないのか？養護学校義務化前は、特殊教育卒業生も今より共に働いていた。養護学校義務化後、高等部に皆行き、地域が遠くなった。法定雇用率は上がるけど、学校で増産された「障害者」を賄いきれず、特例子会社、代行会社が拡大、「働く」の分離が進んでいる。雇用促進法は地域の大多数の小・零細企業を応援できていない。「共に働く」が進まないのは共に学べていないから？

卒後を語るときあまり語られていない「共に働く」を取り上げます。通常学級で学び地域のつながりを作り育てながら就労し働き続けている報告や、共に学んだ経験がなくまずは職場に入って働くとかかりや地域のつながりを作っていく職場参加の取り組みの報告、経営者側から発言などがあります